

取締役総務部長

篠崎 正司

人材及び組織の育成を考える時、一般には「やる気」「目標意識」といった、情操面からの指導・教育がクローズアップされがち。しかし、組織のあり方を「数字」だけで見た時、新たな着目点が生まれるそうです。



組織の成長を、「数字」の面から促すという視点

数字はウソをつかないだから、経営状況を二面的に見ることができません
—まず、篠崎部長の略歴を教えてください—

篠崎 実家がタイヤシヨップを経営しており、親が帳簿をつけている姿を子供の頃から眺めていたので、自然と経理・簿記などへの関心が芽生えました。
簿記を専門的に学べる学校に進学し、卒業後数年間は、税理士事務所補助業務、その後、信用調査会社、不動産会社などの経理を担当。平成8年春、御縁があつて有澤建設に入社しました。

—税理士補助などの前職で学ばれたことは？—

篠崎 「経営は数字ありき」、「数字はウソをつかない」ということです。税理士事務所では、様々な企業の帳簿や申告書類に目を通す機会に恵まれたわけですが、経営状態の良くない企業の帳簿は、やはりどんぶり勘定であるケースが多く、収支の浮き沈みが大い企業は、使途不明金をはじめ理解に苦しむ支出の額が大きい。
特に建設業界には、そんな傾向の企業が多かったですね。そういった点では有澤建設に入社後、この会社の健全経営ぶりが帳簿から理解できました。

眺めていますから、数字とは無縁の趣味に没頭することで、うまい具合に「ガス抜き」出来ていたのかもしれない。
練習や競技会出場のために、休日を丸一日費やすことも多かったですし、モトクロスでもトライアルでも、競技会で上位入賞したことが何度かあります。ただ、オートバイは、一歩間違えると大きなケガをして会社に迷惑をかける可能性もあるため、2年前からロードバイクに転向しました。

PINARELLO QUATTRO

(ピナレロ・クアトロ)という人気モデルで、現在は通勤に使っているほか、競技会にも出るようになりました。これからも、趣味と仕事を両立しながら、数字の面から有澤建設を見守る役割であり続けたいと考えています。

—「経理」という仕事の面白みは何でしょう—

篠崎 企業経営を、二面的な視点で見ることが出来る点で面白いです。一面とは数字に表れることと表れないこと。経理部がやるべき仕事は、単なる足し算・引き算と、収支の記帳だけではありません。もっと細かく、部門別事業別の損益分岐点や、それに伴う人員や設備等の配置、必要経費の動きなどを観察することで、仕事上のムダやムリが見えてくるんです。

さらに、その点を踏まえて経営陣と意見交換すること。『この部門はモチベーションが低下しているのかもしれない』『この工事は工法そのものを見直した方が効率的かもしれない』といった、様々な改善点や課題が導き出される。そういう部分が、経理のやり甲斐であり醍醐味と言えそうです。

気づき、改善点を提案するそれが、「経理」の存在意義

—部長職として、他の経理部スタッフに指導していらっしゃる点は？

篠崎 「気づき」と「改善」を、常に意識することです。一般に経理の仕事というと、朝から晩まで電卓を叩いているだけのイメージを持たれがちですが、前述したように、数字を細かく見て過去のデータなどと比較し、部門ごと、あるいは事業内容ごとに分析することで、色々な事柄が見えてきます。しかし、その『色々な事柄』も、気づきが無ければただの数字です。『ここはもっと支出を抑えるべき』などの改善点を考え、提案できないのであれば、経理部という部署そのものの存在意義が薄れます。
先ほどから数字のことばかり言っていますが、企業の中には「人」を数値化することが難しい、人の力です。そして、人を改善すれば仕事が改善される。その結果、数字も改善される。その「人」の仕事と「数字」という関係を数字の側から見て、問題点に気づき、改善案を出すことが、経理部門の役割だと考えています。

—業務上、心がけておられることはありますか—

篠崎 経理の仕事は、どうしても

ルーチンワークになりがち。同じことの繰り返しだと、ミスも発生しやすくなりますから、確実に二重チェックを行う。些細なミスも未然に発見できるように、常に心がけています。

仕事とは

正反対の趣味に没頭
上手に「ガス抜き」しています

—ちなみにプライベートでも、「数字・計算」関連の趣味を？—

篠崎 いえ、職場では「ロジカル」に辺倒ですが、プライベートでは正反対の、「フィジカルな趣味に没頭しています。学生の頃からオンロードのオートバイが好きだったんですが、就職後、オフロードにハマってしまいました。20年間ほどモトクロスにチャレンジしていました。
熊本にあるHSR(Honda Safety & Riding Plaza)九州や、以前は大部分のオートボリスにもオフロードコースがありましたから、頻繁に出かけていましたね。その後、トライアルにハマり、こちらもかなり色々な場所に遠征しました。

—確かに仕事とは正反対の、意外な趣味ですね

篠崎 周囲からも、そう言われますよ(笑)。会社では、毎日数字ばかり



自慢のロードバイクで現在は通勤に使っているほか、競技会にも出ている篠崎取締役総務部長



PROFILE
篠崎 正司氏
取締役総務部長

昭和44年、長崎県壱岐市出身。平成8年に有澤建設経理部に入社後、平成17年～22年まで有澤ホールディングス経理、同年10月より同社取締役と、ミルクリック福岡、アメニックス有澤、有澤建設の監査役を兼任。

